



きんしひな 金至鳥の蜀佳

長野県長野高等学校
定時制だより第12号
2024年3月19日

終業式

本校定時制には、「温蔵庫」があります。「冷蔵庫」ではありません。夜間定時制には給食の時間がありますが、その時に食べるお弁当を温めてくれています。



この温蔵庫がやってきたのは平成27年。その経緯について当時の教頭先生が残してくれたメモがありました。以下は抜粋です。

「本校定時制の卒業生から、余命も少なくなったのでお世話になったお礼に定時制生徒のために使ってほしいと寄付の申し出あり。名前は匿名でお願いしたいとのことであった。

昭和20年代、工業高校の定時制で1年学び、その後普通教科の学習をしたいとのことで、本校定時制に2年時より学び卒業した。当時は本当に勉強をした。高等数学など難しかったが、先生方に教えてもらったりして、大学の教育学部に入学することができた。大学卒業後は県内の小学校にて教えた。

名前を口外してほしくはないが、生徒に対して何かの機会に、ここで勉強を一生懸命やったことが、その後の人生の源となったということは伝えて構わないということであった。」

この寄付から、温蔵庫が購入されることとなりました。午後4時ごろに配達される弁当が、給食の午後6時に温かい状態で食べられるのは、本当にうれしいことです。

定時制の教育において、特に身体の成長の面で、給食はとても大切です。一人の先輩の思いが、そのままお弁当の温かさとなって今も息づき、生徒の皆さんの成長を後押ししてくれています。

今日、3月19日は終業式、令和5年度の最終登校日です。皆さんにとって、どのような1年だったでしょうか。学校は、生徒の皆さん自身の思い、身近な方たちの思い、先生たちの思い、さらには普段気づくことのない、遠くから皆さんを見守る方たちの思いから成り立っている場所です。多くの人たちが応援しています。失敗を恐れず、様々なことに思い切ってチャレンジする令和6年度の高校生活であることを、願っています。

(文責 定時制教頭)